

都立小児総合医療センター循環器科では、先天性心疾患を中心に、心筋疾患、不整脈、肺高血圧、川崎病など小児の循環器疾患全般を心臓血管外科と協働で診療しています。

外来は、月曜・火曜・木曜の午前・午後、金曜の午前です。紹介予約制ですので、予約センター(042-312-8200)で予約を取るようにご家族にお伝えください。緊急性のある場合は、いつでも対応いたしますのでお電話いただくか(代表:042-300-5111)、24時間ERにご紹介ください。新生児科や救命救急科の医師による患者搬送も行っています。

入院は、主に森の4番地病棟で対応しています。重症例は小児集中治療室(PICU)、新生児は新生児集中治療室(NICU)に入院し、連携して診療しています。小児の心疾患では、他臓器疾患、染色体異常、症候群などを合併することが少なくありませんが、当院は小児医療の総合施設として、合併症にも最適なトータルケアをめざしています。

疾患別の現況

2017年には378人が新規に受診しました【表1】。

1. 先天性心疾患

心室中隔欠損、心房中隔欠損、房室中隔欠損など左右短絡疾患が代表的です。大動脈縮窄、ファロー四徴、完全大血管転位、肺動脈閉鎖、総肺静脈還流異常、単心室など比較的重症の先天性心疾患も、合わせると入院例の半数近くを占めています。

2. 心筋疾患

心筋疾患の発症時は重症例が多く、特に劇症型心筋炎は補助循環(ECMO)を迅速に導入する必要があります。東京都こども救命センター多摩ブロックを担当する救命・集中治療部と連携し、診療しています。

3. 不整脈

上室頻拍はよくご紹介いただき、乳幼児は薬物、年長児はアブレーション(多摩総合医療センターに依頼)で主に加療しています。心室頻拍など、致死的な重症不整脈にも対応しています。

4. 肺高血圧

特発性は少なく、多くは先天性心疾患にともなう二次性のものです。ときに難治性ですが、治療薬の開発が進み予後は改善しています。

5. 川崎病

急性期は総合診療科に入院し、重症例の診療には

循環器科も協力しています。免疫グロブリン療法不応例の管理により冠動脈瘤は低率に抑制できています。冠動脈瘤合併例も、虚血性心疾患の防止に努めています。

【表1 主要疾患と初診患者数(人)】

先天性心疾患	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
心室中隔欠損	112	112	111	97	82
動脈管開存	19	15	35	28	34
心房中隔欠損	41	42	44	55	48
房室中隔欠損	5	4	6	11	5
肺動脈狭窄	22	15	24	25	23
大動脈狭窄	6	4	2	6	1
大動脈縮窄	8	7	15	8	3
大動脈弓離断	6	3	2	2	4
完全大血管転位	3	4	5	3	4
ファロー四徴	10	12	7	8	11
総動脈幹	2	1	0	1	1
左心低形成症候群	0	2	5	5	3
三尖弁閉鎖	2	1	0	2	2
単心室	2	0	1	1	1
純型肺動脈閉鎖	1	0	5	2	1
両大血管右室起始	7	1	8	3	3
総肺静脈還流異常	6	3	5	7	2
修正大血管転位	0	1	1	0	2
エプスタイン奇形	0	3	3	4	1
その他先天性心疾患	47	42	45	51	87
合計	280	260	316	319	318

後天性心疾患	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
川崎病(冠動脈瘤合併等重症例)	8	5	5	4	2
心筋症・心筋炎	2	5	3	7	6
特発性肺動脈性肺高血圧	0	0	1	0	0
不整脈	42	31	67	46	52
合計	52	41	76	57	60

【表2 胎児心エコー検査数】

	2013	2014	2015	2016	2017	(年)
検査数	192	155	178	189	196	
症例数	130	120	128	133	145	
心疾患例数	55	30	47	48	42	

先天性心疾患の出生前診断に関して

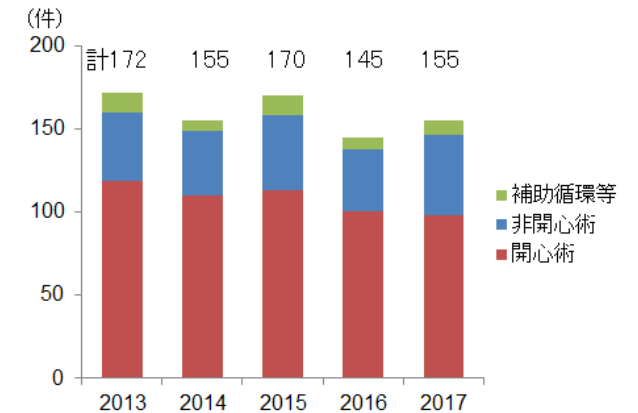
当科の小児循環器専門医が、隣接する多摩総合医療センターの産婦人科外来で胎児心エコー検査による先天性心疾患の出生前診断を行っています。当センター開設以来、1,200件以上の胎児心エコー検査の実績があります。過去5年間の平均は年間182件です【表2】。年間平均131例(同一症例に複数回の検査あり)のうち、胎児に心疾患が診断されるのは44例(34%)です。

特に、完全大血管転位、総肺静脈還流異常、左心低形成症候群、純型肺動脈閉鎖など、出生後早期に発症する重篤な心疾患は、出生前診断が臨床経過の改善に重要です。1人でも多くの胎児が出生前診断されますように、心疾患が疑われる胎児を御紹介いただければ幸いです(“胎児心エコー外来”の予約窓口は、多摩総合医療センターの産婦人科になっております)。

検査・治療の現況

1. 心臓血管外科手術

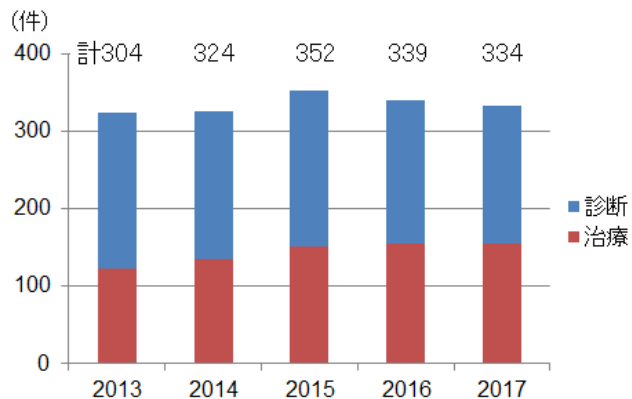
心臓血管外科手術数は、都内でも屈指の症例数があり、成績も良好です。2017年の人工心肺を用いた開心術が98件、非開心術が48件、補助循環等が9件、計155件でした【図1】。



【図1 心臓血管外科手術数】

2. 心臓カテーテル検査・治療(インターベンション)

心臓カテーテル検査・治療の件数は、2017年には診断177件、治療157件、計334件に行いました【図2】。他の画像検査を活用し、心臓カテーテル検査の必要性も検討しています。また、侵襲の少ないカテーテルインターベンションに積極的に取り組み、JPIC 学会認定施設として心房中隔欠損と動脈管開存のデバイス治療を行っています。



【図2 心臓カテーテル検査・治療件数】

3. その他の検査

心エコー検査(経胸壁、経食道、3D、胎児)、運動負荷試験、ホルター心電図、造影CT、心臓MRI、心筋シンチ、肺シンチなどを行っています。

臨床研究の現況

川崎病について、東京小児臨床研究ネットワークによる急性期治療の研究(PEACOCK)、冠動脈瘤のレジストリ研究(KIDCAR)を行っています。その他、肺静脈狭窄のステント留置術、ファロー四徴術後成人の大動脈拡大、新規利尿剤の有効性、先天性完全房室ブロック予防(J-PATCH:多摩総合医療センターと共同)などに関して研究しています。

川崎病冠動脈瘤のレジストリ研究の基盤となった後向き研究(ZSP2)の論文が、小児科関連で最も権威のあるJAMA Pediatrics 誌に受理されました。

交通アクセス



※京王線府中駅、JR 国分寺駅、国立駅、西府駅からも直通のバスがございます。

ご予約・受診相談

【予約方法】

予約専用電話 042-312-8200
(平日 9:00-17:00 土曜日 9:00-12:30)

医療機関または患者さんから、予約電話に診療科を指定して予約をお取りください。

【循環器科 受診相談】

代表電話 042-300-5111
循環器科責任者(連携担当医)三浦までお電話ください。
Eメール (masaru_miura@tmhp.jp)もご利用ください。
(時間外は循環器当直にお電話ください)



心臓病の小児のために、スタッフが一丸となって診療に取り組んでいます。重症例はもちろん、疑い例や軽症例も含めて、いつでもご紹介ください。



東京都立小児総合医療センター
循環器科のご案内
2018年3月

循環器科の特長

1. 手術、カテ治療の症例が豊富です。
2. 出生前診断を積極的に行っています。
3. 合併症の管理が確実です。
4. 重症例にも迅速に対応します。
5. チーム医療が充実しています。

〒183-8561 東京都府中市武蔵台 2-8-29
TEL 042-300-5111 (代表)